

平成26年度

兵庫県立視覚特別支援学校

支援部

アイ・あい だより

2月号



節分を過ぎれば季節は春



新しい年を迎えたばかりだと思っていましたが、気がつけばもう2月です。「1月
は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われるように、あっという間に過ぎてし
まいます。年頭に立てた目標を覚えていますか。節分を過ぎれば暦の上では春にな
りますが、まだまだ寒い日が続きます。目標達成のためにも、栄養を摂り、
適度な運動、手洗いやうがいを欠かさず、健康に過ごしましょう。



ちょっとした工夫で楽しく遊べる



お正月の遊びとして、昔から親しまれているものにカルタがあります。種
類はたくさんありますが、大判にしたり、選ぶ枚数を少なくしたりすること
で、楽しく遊びながら言葉を覚えることができます。弱視の方がよく経験す
ることを川柳にした「弱視カルタ」や、点字を貼った百人一首など相談室に
もありますので、興味のある方は是非ご覧ください。



はいはいから手引き歩行

赤ちゃんが歩き始めるまでには様々な段階があります。歩くという動
作は自分の世界を広げるためにとても大切なものです。発達の段階に応
じ、手助けすることで成長が促されていきますので、一部を紹介します。

はいはい

はいはいを始める頃には、前から声をかけたり、音の鳴る
おもちゃや光るおもちゃを少しずつ移動させたりしましょう。
はいはいして取りに行きたくなるようなものがいいいでしょう。



つかまり立ち

つかまり立ちができるようになったら、ベビーサークルを活用すると、
柵につかまりながら横に歩くようになります。手が届く高さにおもちゃ
を置き、片手でつかまり立ちをさせ、もうひとつの手で
おもちゃを触るようにします。



ひとり立ち

つかまるものを触らせたり、声をかけたりして意欲を引き出します。
ひとりで立てるようになったら、離すことを必ず伝えてから支えていた
手を離し、しばらくひとりで立ってバランスをとりましょう。

つたい歩き

部屋の中で歩くときには、安全な場所を選んで行います。テーブルや
手すり、壁や家具などを伝わらせながら、移動の方法を教えます。ひと
りで移動するよろこびを知り、同時に自立心も芽生えてきます。

手引き歩行

子どもの歩く速度に合わせて歩きます。手の握り方も徐々に軽く握り、
子どもが大人の手を握るようにさせます。周囲の様子を説明すると不安
が少なくなります。手引き歩行が上手になったら、公園やお店に行って
物に触れたり、楽しく歩いたりしましょう。



*成長には個人差があります。あせらず、子どもの動きを見ながら進
めていきましょう。

参考文献「目の不自由な子の育児百科」五十嵐信敬